

発行所

静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

第455号

2020年

5月27日

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

あなたも高教組へ

2面 ・ころなにまけるな
・特別支援教育の現場から



学校再開に向けて
ひとりひとりの生徒の声に耳を傾け、
豊かな成長・発達を保障する場に

主張

始まりは些細なこと
からのようです。断る
理由も見つからないうち
に、ちよつとしたことを頼
まれて。これがフットイ
ンザドア手法。ドアを開
けたら最後、相手に靴
の先を隙間に突っ込ま
れ、ドアを閉められなく
なります。一度要求を
受け入れたら、次から断
りづらくなり、やがて、少
しずつ要求がエスカレー
トして、いつの間にかマウ
ンディングされてしまふ。

5月18日、静岡高教組は、第4次要求書を提出し、5月25日の学校再開に
向けて、感染予防対策、生徒への対応、教職員の働き方に関して要請しました。
「新型コロナウイルス感染症への対応」に関する
申し入れ(第4次)抄
1、生徒と教職員のいのち
と健康を守ることを第一
とし、マスク、消毒液、体
温計、フェイスシールドな
どを十分に確保するた
めに学校経営予算を増
額し、柔軟な対処を保障
すること。
2、教室内の過密を解消
して感染リスクを下げる
ため、複数集団に分けて
少人数による授業HR
を「可能な限り」ではな
く、徹底させること。少
人数指導が可能となる
ような条件整備を早急
に行うこと。
3、学校再開後は授業を
行う時間の確保を最優
先とすること。しかし、
土曜授業や7時間目の
設定、夏季休業日の設定
フアシストが最初は笑顔
でやってくるように。ハ
ラスメントをする人も、
笑顔で近づいてきます。
混乱の中、新年度が始
まり、職場での人間関係
を築いていく時期、ここは
注意しなくてはなりま
す。ハラスメントをする人

ハラスメント関連法施行を前に
せん。パワハラ、セクハラ、
モラハラなど、どれも立
場の上の人が下の人に行
います。対等な人間関
係を築くことが、ハラスメ
ント対策の鍵です。
教師が理不尽で過度
に負担の重い課題を生
徒に強制するようなこ
とがあれば、それもマウ
ンディング、ハラスメントで
しょう。これは指導なの
か、支配なのか、我々教
職員も常に自ら問い続
けなくてはなりません。
ハラスメントをする人

「課題が多すぎるのか、
やる気になれないのか、提
出しにくい生徒もいる。精
神的にまいっている様子の
生徒も。登校日に様子を
見るが、もつとき細かく
生徒の状況を把握して、
丁寧に対処しなくては。」
「オンラインに頼ると教
育が商品やサービスになっ
てしまふ。やはり対
面型が必要。」
「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「高い学費を払ったがそ
れに見合わないオンライン
授業が展開されている。」
などの不満も。
進学就職に対して、も
「学費の問題で行きたい
大学を諦めなければなら
ない。」(高校生)「学校や
友達と情報共有もでき
ず、どう就活を成功させ

「課題が多すぎるのか、
やる気になれないのか、提
出しにくい生徒もいる。精
神的にまいっている様子の
生徒も。登校日に様子を
見るが、もつとき細かく
生徒の状況を把握して、
丁寧に対処しなくては。」
「オンラインに頼ると教
育が商品やサービスになっ
てしまふ。やはり対
面型が必要。」
「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

「授業が始まったら、マス
クでは熱い。フェイスシ
ールドと小型扇風機が欲し
い。」
「40人では密すぎるので
二分割し、ケールでつない
で他の教室で同時中継し
てみた。でも教室が足り
ない。」
「特支で重度の割合が
高く、信頼関係構築のため
にはスキップが必要。ど
うするか悩んでいる。」
「肢体不自由生徒に対
しては、消毒液やペーパー
タオルが大量に必要。フェイ
スシールドもクリアファイ
ブルで手作りしているが、欲
しい。」
「万が一教職員が校内や
通勤路上で感染したら、
公務による傷病扱いでない
と安心して働けない。」
長引く休校で、あらため
て学校の存在意義が問わ
れています。学校は、安心
して過ごせる居場所、新た
な出会いの場、成長発達の
場、とりわけ生活や学びに
困難を抱えた子どもたち
にとつてこそ、必要性が大
きいことが明らかにされま
した。生徒たちが安心し
て過ごせ、ひとりひとりの
子どもたちの声に耳を傾
け、寄り添い応答すること
ができる学校。そのために
は、安心安全の確保、定数
増、環境整備が急務です。

視座

「zoom呑み」とやらに挑戦
してみました。
今はバラバラの
学校にいる元
同僚の先生た
ちと。テーブルの上にパン
コンを置き、飲み物とおつ
まみを用意して。思った
より設定は簡単で、おしゃ
べりは楽しく、しかも、帰
りの心配はしなくて、気
軽。またここで再会しま
しよう、とみんなと別れま
した。「コロナのせい」でい
るのつらいことばかり
でも、これを契機に、新し
いことも始まっています。
近所の飲食店は次々に休
業に入り、お店で飲んだり
食べたりできなくて寂しい
日々、と思いきや、テイクア
ウトのお弁当を作ってくれ
るようになり、今やテイク
アウト巡りが、「エール飯」
運動となり、この田舎の町
でブームになっています。
これまで行つたことのない
お店の美味しいテイクアウ
トをいただき、コロナ後に
店内でいたたくという楽し
みも増えました。▼リモー
トワーク、在宅勤務にも挑
戦してみました。プロジェ
クターにスライドを映して
カッターよく授業することに
憧れ、プレゼンテーション
ソフトと格闘したんです。
今では、You Tubeを検
索すれば、先生が何人も
出てきて、映像でわかりや
すくやさしく教えてくれ
ることに驚きました。そ
して、オンライン授業を配
信してみました。ほんのお
試しで数人を相手に。す
ると、もう卒業してずいぶ
ん経った教え子たちもネッ
ト上にやってきて、世代を
超えて、ちよつとした同窓
会になりました。卒業し
てから学びたくなった教え
子たちの在校中には見ら
れなかった真剣な姿勢に
感動させられました。▼歩踏
み出すと、目の前の壁が、
とたんに扉になることも
あるようです。さ、学校
が再開されようとしてい
る今「コロナのせい」より
「コロナをきつかけに」を
一つも増やし、新しい世界
の扉を開けちゃいましょ



実態調査アンケートフォーム

つらい時には、吐き出すだけでも、少しは楽になるかも…。

新型コロナウイルス感染拡大対策による学校休業の中、現場の声を寄せてもらいました。

ころなにまけるな

学校再開の文字が見え、嬉し反面不安も広がりますね。教員生活33年目。こんな日々が来るなんて、想像したことなかったです。

窓ふきを頑張つたら、左腕があがらなくなりまし。運動不足もはなはだしい。そんな状況で身体が弱っている中、五連休の最終日、同居の姑が、二日嘔気で食事がとれません。実の息子と二緒に居る時間が長く、ストレスから胃食道逆流をおこしたようです。トイレの中をアルコールで消毒しました。レインジャケットを着て、使い捨て手袋とマスク(日中のものとは別にか)を替える。)を着用しまし

な弱つた心や、わきあがる気持ちに蓋をして、無理をすることがありませんように。子どもたちへの配慮事項がたくさんあげられてきました。先生方、それと同時に先生方の心と身体の健康にも留意していただきたいです。もし、それでも辛かったら…。ぜひ頼ってください。吐き出すだけでも、少しは楽になるかも…。

も様々ですが、コロナに「発表」の機会を奪われたという点では同じかもしれません。集まってるの練習や共同作業、発表ができません。先輩が後輩に教える場面や他校、他県の生徒から刺激を受ける機会が減っているというところもあるでしょう。全国大会では、夏の全国高総文祭高知大会は中止ではなくWebを中心とした開催への変更ですが、そのほかの各部の大会、例えば「NHK杯(Nコン)」「放送部や「全日本吹奏楽コンクール」「競技かるた全国高校選手権」などの全国大会はやはり軒並み中止となりました。高知新聞のLINE公式アカウント「部活ができない文化」部・総文編」には、そうし

た目標を失って意気消沈している生徒の声が多く寄せられています。一方で、オンラインでの作品や演奏の交流など、この状況でも前向きに楽しんでいる文化部の部員の姿も。運動部のような競技的色彩が強まってきている印象の文化部ですが、文化部本来の価値は、個人でも集団でもその作品や演奏、技術などを作り上げる過程にあるのではないのでしょうか。あらためて部活動が目指すべき価値を考えさせられると、共々、「やってきたことを無駄にせず次の目標に向かう」「上記LINE投稿より」という高校生たちのたくましさ、写真部顧問である筆者も大いに励まされる思いがしました。(遠藤 覚)

休校になって

4月の始業式から1週間、生徒は休校に入りました。友達つくりにかかせないLHRや春の遠足はできなくなり、いきなり長い休みに入りました。

休校中はオンラインでS H Rや授業をしています。私はパソコンなど機械が得意ではないので不安でしたが、研修課が毎週のように研修会を開いてくれ、オンライン授業も複数で助け合いながらやっています。授業の中では「わかつたら、指でOKサインを出して」と生徒の反応をみたり、放課後の時間帯で「(オンライン)質問会」をやったり、オンラインでの課題の提出にコメントをつけ、そこに生徒からの返信があつたりして、なるべく「方通行にならないようにしています」。

私は相談室担当なのですが、ある登校日に生徒が困った顔で来ました。休校中の課題が山と出ており、配られるプリントの整理がつかなくなりました。自分も「プリントを見てやり方がわからず、やる気が起きない」と言われ、確かにその通りだと思えました。教員としては、「やらせなくては」と課題をたくさん与えていたことに気付かされました。学校再開の日も近づき、まず課題が終わらなくて学校にとりあえず来てほしい、そんな思いです。(静岡市立高校小川京子)

「どうする?! 新型コロナ」

岡田晴恵 岩波ブックレット

3・11の津波のテレビ報道で最初の予報は最大6mだった。私はそれを鵜呑みにし、テレビを離れて、それから十分後テレビを見ていた同僚の悲鳴に近い声がかえった。宮城県名取市の上空、NHKの飛行機カメラが映し出す光景があつた。平穩に見える町を飲み込んでいく巨大な津波。想像だにできなかった光景だった。

今回の新型コロナウイルスについても、昨年末から1月まで、テレビで専門家が、感染力が弱いとか、日本は医療体制が整っているから過剰に反応すべきではないと発せられ、それを鵜呑みにした。

しかし、2月4日のテレビ朝日の放送でこの本の著者岡田晴恵さんのコメントでそれまでの私の楽観ムードは大きく転換した。岡田さんは主に韓国の対策を取り上げ、日本と比較した。一つは、すぐに感染率を確認すること。これで、医療の対処法がはつきりする。そのためには、PCR検査を早く最大限に行う。病院内ではな

特別支援教育の現場から

『福祉事業型専攻科セリータ富士』始動しました!

私は、支援学校を退職して二年、思いを同じくする人達と、昨年十二月、静岡では初めて、福祉事業型専攻科「セリータ富士」を開設しました。

特別支援教育の中で、専攻科は、専ら視覚や聴覚の支援学校高等部の上の職業能力や資格取得を目的とした過程を指しています。が、知的や肢体不自由児の支援学校でも、保護者からの教育年限延長の要望を受け、私立支援

学校や鳥取大学附属特別支援学校に、専攻科が設けられてきました。ここでは、青年期の「自分作り」や学校から社会へのスムーズな移行を目指して取り組まれています。

福祉事業型専攻科というのには、やはり保護者や教員たちの、青年期の「自分作り」を意識した学習をゆつたり

と受けさせたいという願いから、障害者総合支援法の自立訓練事業を使って設けた事業のスタイルです。これは、十年ほど前に、和歌山県のフォレスカールを皮切りに、全国に広がってきました。

「セリータ富士」でも、この考えを受け、モラトリアムの時代を大切に、「青春を謳歌して、ゆつくり、じっくり、とことん学ぼう!」を合言葉に、この春入所した3名の利用者さんと、日々楽しく活動しています。

「セリータ富士」で、自分の場ではない、等々と、利用者それぞれの言葉に、「あれあれ」とため息もでました。が、ひと月経ち、個々に相手の良さを認め、配慮する言葉が聞かれるようになってきています。

青年期教育は、「教諭すること」ではなく、「二人一人の変化を信頼すること」とかつて読んで小畑耕作先生の本の通りだと、生のドキュメンタリーを

観ているような感動の日々です。

これからもセリータならではの学習を積み重ねながら、仲間を認められ、自信を高めて、自分の夢に近づけていってほしいと大いに期待し、これからが益々楽しみです。(佐野瑞月)

く市役所の駐車場などにアートをばり、専用の検査設備を整える、あるいはドライブスルー型の検査も有効。2つ目は、民間の検査機関に支援を求めるなどを明確に説明した。

もうすでに、岡田さんの意見は知っているという人も多いのではないかと、思うが、新型コロナの情報整理するのにはいい本ではないかと思う。

報道であまり語られていないものを、この本からピックアップする。

①感染者と他の家族を混ぜて洗濯しても問題ない。②次亜塩素酸はモノや排泄物に使う手には使わない。③コロナウイルスは今回のものを含めて7種類、重篤な症状を起こすのは3つ。SARS、MERSと新型コロナ。④夏に弱いウイルスだが、冷房設備が普及しているため、東南アジアでも感染が起きている。日本でも、感染が続くかもしれない。

感染症対策専門家会に厚労省の対応は、クワスター発見、重傷者の優先、市民の行動変容の3本であった。しかし、本来なら早期発見、医療体制の確保と市民の行動変容ではなかったかと結んでいる。(Y)